

多功城主多功綱継、石崎通長に
官途状を与える

（天正18）年1月22日

官途状は、家臣を朝廷の官職に推挙する

ことを記して、主君が家臣に与えた文書です。しかし、今回の官途状が発せられた戦国時代さなかの1590年には、朝廷から実際に官職に任命されることはほとんどなく、主君が家臣に官途状を与えただけで、官名を称することが多かったようです。しかし、このような書類が与えられるということは、家中で大きな功績を挙げていることを意味します。

戦国時代の頃、多功城主多功氏の主家である宇都宮

氏は、内部抗争を繰り返し弱体化してしましました。そして、下野の地には、虎視眈々と勢力拡大を狙う、戦国大名たちが侵入したのでした。上三川城や多功城がかかわる主要なものとしては、相模の北条氏が1572年、1584年、1585年7月・12月、1589年の5回、越後の上杉氏が155



石崎通長が受け取った官途状

8年の1回と休む間もなく攻め続けられました。したが、そのたびに強大な敵を撃退しました。

多功城は宇都宮氏の南の要として鎌倉時代に築かれ、それ以降、城主多功氏のもと数々の戦いを経験し、城を守り抜きました。この影には、家臣の目覚ましい働きがありました。江戸時代初めの1670年に作成

された多功氏家臣録では、石崎周防・伊沢遠江・橋本若狭・青柳丹波・野沢長門・阿久津内膳・坂治部・海老原主水・生沼治部太夫をはじめ28人の家臣が記載されており、これらの家臣の働きによって城が守られ、素晴らしい活躍に対しては、城主から様々な褒美が与えられたのでした。

多功家の重臣であった石崎通長は城主に従い、数多くの手柄をたてました。今回の題材の官途状も、1589年に北条氏が攻め入った際の褒美としてもらったものであり、このほかの戦

いの際にも、官途状や所領をもらったほか、本家である宇都宮氏からも官途状をもらうなどの活躍をしました。昔の記録の多くが残されていないため、他の家臣たちの詳細な活躍については不明な点が多いのですが、後に光が当てられる、城主の目覚ましい活躍の影には、それを支える家臣たちの活躍があるのです。

忘報俳句

高圧線超えてむらへと初鴉

浜野正男

老年の見えて酌み交ふ年酒かな

大八木喜重郎

古きこと胸に飾りて年明けり

柳田石村

どの木にも新芽を抱き子の未来

伊沢静香

千両や児のはしやぎをる誕生日

蓬田四方

今日だけは紳士淑女の七五三

濱野マス子

子の駄洒落競ひ合ふ毎初笑

阿部信子

年新た筑波加波山嶺明かり

野沢花枝

客帰りゆるり姫の寝正月

上野キミエ

着ぶれて達者な口の旅行会

石崎節子

